



## 特集

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること 5

報告

## フードバンクかながわの物資が 九州豪雨災害への支援へ

ちやりtea屋

横浜市港南区の災害NPOちやりtea屋代表 相澤明春さんから九州での活動報告が来ました。一部をご報告します(全文はホームページに掲載)。フードバンクかながわは、カップ麺、飲料、マスク700枚などを提供。

毎週240人

7月3日熊本県鹿兒島県に停滞した梅雨前線と線状降水帯により13日間にわたり雨が降り続き、15県にも及ぶ甚大な被害に見舞われた。不便な避難生活、避難生活の長期化も避けられない。当団体はコロナ禍での支援活動・災害ボランティアを支え、被災された方々の刻々と移り行くニーズに対応するために、窮屈な生活を強いられる子どもたちの支援を、フードバンクかながわの全面的な協力を得て支援物資を届けた。

7/14 熊本県南阿蘇村一般社団法人ハス南阿蘇たすけあいベースに運び入れ、仕分け作業を行う。個人からの送付物には様々な物が混在している支援物資もあり、仕分け作業は非常に困難。7/14現在、現地行政と社協では一般からの支援物資は提供を受け付けていない。フードバンクかながわからの物資は仕分けも容易ですぐに活用できた。

防災から3週間経過する現在も例えば人吉市のインフラは復旧していない。簡単に摂取できるインスタント食品・レトルト食品・飲料のニーズは引き続き残るが、インフラの復旧と共に各戸や仮設住宅で水道とガスが使える状況になれば喜ばれる支援物資も変わる。

「フードバンクかながわ様からご提供頂きました支援物資は大変喜ばれました。重ねて厚く御礼申し上げます。」  
(災害NPOちやりtea屋代表 相澤明春)



## ひとり親支援 コロナ禍で収入激減のひとり親世帯への支援始まる ～フードバンクかながわも食品提供で協力！～

横浜市、横浜市社協では各々の枠組みでひとり親支援を開始。

○横浜市は食品ロス削減を進める資源循環局+こども・若者福祉局が共同し、横浜母子寡婦福祉会が窓口を受託、フードバンクかながわが協力し、8月より21年3月まで毎週4カ所×60名のべ8000食を提供する。米1.2kg副食類・菓子など2～3kg。申し込みは横浜市母子寡婦福祉会。【ばくサボ事業】



◀8月初回120名分を受け取りに来られた横浜市母子寡婦福祉会の皆さん



◀7月のトライアルでセットされた食品と一袋の内容。なんととってもお米!



500人宅配

○横浜市社会福祉協議会(横浜ボランティアセンター)は独自の募金「ヨコ寄付」を活用し、500世帯へ食品を郵送する。米5kgとレトルトは寄付から購入。フードバンクからは副食のスープ、缶詰類、菓子などを提供し、集荷・セットを港南区の福祉作業所が担う。【「ひとり親の子どもへの食」を「障害者の職とともに支える」】

寄稿

## 「安心して笑顔になれる」～こどもカフェ～ 藤村 良彦 (オリーブチャペル牧師)

藤沢駅徒歩5分にあるオリーブチャペルを会場に毎月1回、子どもたちへの夕食無料提供を続けてきました。午後3時から自由開放されているラウンジで遊んだり宿題をしたりしながら時間を過ごし、午後6時から夕食となります。食材を提供してくださる方、調理のため来てくださる方など、多くの方のご協力を得て続けてきました。緊急事態宣言の時には開くことができず、個人への食品提供となりましたが、6月から施設内全体を抗ウイルスコーティングし、こどもカフェを再開しました。入口には簡易の流し台が設置されていて、入室時に手洗いを行える環境が整っています。夕食の提供はフタ付きの仕出し用お弁当箱を購入し、安心して提供できる環境を整えました。

頂いている食材の一つも無駄にすることなく、これからも子供たちの笑顔溢れる場所の提供を目指して活動を続けてまいります。子供たちは一緒に食べている時、お菓子やデザート、飲み物を受け取る時、最高の笑顔を見せてくれます。食材支援をありがとうございます。



## 相模原市 学生支援継続

5月31日のオープンイベントから6月30日まで月曜日から土曜日27日間に実施された学生への食支援は、計3016人平均116人、提供食材7.8トン、一人当たり2.6kgを提供した。16団体、18名から寄贈があったということだ。

フードバンクかながわは約3.5トンの米・インスタント食品・菓子・飲料等を提供した。

期間中のアンケートでは、多くの学生から支援の継続の希望があった。今後に向けては、物資配布事業「大学生等未来応援DAY」の開催をはじめとする「さがみはら大学生等未来応援事業」を実施し2回、2020年3月まで食支援を継続する。

フードバンクかながわからも米等を提供するが、市ではひろく地域の団体や個人からの寄贈を呼び掛け、地域で学生を応援する仕組みを作る。

大学生等向け  
食料支援  
7月から、毎月第1・3土曜日

対象：市内の大学・短大・専門学校・私立大学  
①大規模な食料支援の日(当日のみ)  
②平日の食料支援の日(毎月1回)

主催：相模原市(こども・若者支援課、食料支援担当)

お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ [info@fb-kanagawa.com](mailto:info@fb-kanagawa.com)  
236-0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45  
Tel 045-349-5803

発行責任：藤田 誠

QRで  
ホーム  
ページ  
へ

## 基本情報 2020年度の累計 (2020/7/31現在)

◇寄贈された食品 <b>85.0トン</b>	◇提供した食品 <b>79.4トン</b>
事業者寄付 79.7トン	行政・社協 20.3トン
フードライブ 5.3トン	地域フードバンク 24.3トン
	こども食堂等 23.2トン
	施設 1.3トン
	福祉・病院 10.0トン
	調整 0.3トン

### 合意書締結団体

寄贈締結団体	112団体
提供締結団体	186団体
行政・社協	48団体
市民団体	138団体
(子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む)	

### 賛助会員寄付状況

設立以来の累計

団体会員	124団体
505口	505万円
個人会員	222人
929口	929千円
寄付金累計	15,195,399円
2020年度	3,550,956円

(2019年度実績 寄贈97トン2295回、提供92トン1504回 寄付金11,612,313円)

## 7月のフードバンク 寄贈20トン 提供21トン

<b>【寄贈食品】 20トン</b>	<b>【提供食品】 21トン</b>
事業者 17.4トン 37回	行政・社協 4.2トン 30団体 55回
フードライブ 2.6トン 79回	地域のフードバンク 7.6トン 14団体 34回
	こども食堂・居場所 5.8トン 47団体 88回
	施設関係 0.53トン 5団体 7回
	福祉病院関係 2.6トン 19団体 31回

- ★学生支援はアルバイト先の再開で一息ついた状態。
- ★非正規・パート・アルバイトの雇用止めなど雇用の悪化による食支援が出ている。
- ★ひとり親世帯への支援  
横浜市ひとり親世帯への食品支援を計画。フードバンクかながわは事業委託先の横浜市母子寡婦福祉会と合意書を取り交わし、週に8コマ240名に食品提供を行う。また横浜市社会福祉協議会は港南区福祉作業所で組込を行い、希望ひとり親世帯500世帯に食品を宅配する。
- ★九州や東北の災害支援活動を行うボランティア団体への提供が始まった。
- ★7月も米の提供が増え3.8トン。1月が1.5トンで約2.5倍となった。今まで小分け1.5kg袋を1.2kgに改変しざるを得ず、事務局内に「Oh米こめクラブ」を結成し、お米の提供を呼び掛ける。

### 4-7月累計

#### 寄贈 85.0トン前年比4倍

個人からの持ち込み・郵送での食品寄付  
131件約150kg  
6月以降のボランティア 延べ52人  
米16トン(生活クラブから7トン)

#### 提供 79.4トン前年比3.2倍

学生支援相模原市・金沢区社協のべ  
3500人  
病院関連への支援15,100人  
米提供11.3トン

コロナ対策に手洗いを設置▲

### 8月フードドライブ

ユーコープ店舗7-8月  
パルシステム宅配  
生活クラブ宅配デポー  
ヨーカドー17店舗で  
8/8から常設



## 今月のメッセージ

### 理事 庭野 文雄さん

(神奈川県生活協同組合連合会 専務)

新型コロナウイルス感染症が発生してから半年以上が経過しましたが、感染拡大はまだ収束する気配が見えない状況です。

今回の感染症拡大は、この間経験したことののないような社会的な混乱と危機を生み出し続けています。そんな中、この通信で「地域でおこっていること」が特集されていました。子ども食堂の活動や食支援の活動で奔走されている多くの皆さんに本当に頭が下がる思いです。同時に事務局の皆さんのご苦勞に感謝します。そして寄贈された食品が昨年の2倍を超えているのを見ると、たくさんの善意の力でこの活動が成り立っていることを実感させられます。フードバンクの活動が、今の社会に本当に必要とされている活動だということがよく分かります。

フードバンクのこと、フードドライブや食支援の活動を、もっと多くの人に知らせて、みんなの知恵と力で、この危機を乗り越えたいですね。



## フードバンクかながわ Oh米こめクラブ

フードバンクかながわには生協、農家、市民からお米の寄贈がありますが、コロナ禍による社会・経済的な悪化に伴い、学生支援・一人親・生活困窮者への支援やフードパントリーの実施により食料支援が大幅に増え、4-6月で10トン(昨年の2.5倍)のお米を提供しました。ユーコープから週に200kg、(株)ミツハシから600kg/月に加えて、5-7月に生活クラブから7トンの寄贈がありましたが、ニーズはさらにふえ、**お米が足りません!**

今まで1.5kgの小袋でお届けしていたのを1.2kgに減量することになりました。そこお米の寄付を促すOh米こめクラブを立ち上げました。子どもへ緊急支援として、ひとり親(特にシングルマザー)世帯、学生などに支援が必要です。この呼びかけを受けて **労福協は米1合運動を計画中** とのことです。感謝します。【Oh米こめクラブキャプテン小林 薫】



Oh米こめクラブ 小林さん

## 米が一人ひとりに届くまで

生活クラブの米合計7トンの寄贈。最終回7/29は1.4トンが搬入された。個人からの寄贈も多い。



▲寄贈された米⇒再精米・計量⇒1.2kgに小分け⇒週に500~800袋作ります。(精米後2か月以上の米は再精米します)

## 報告

### フードドライブからフードパントリーへ ～フードシェアいちがおの活動～

(NPO法人ピッピ・親子サポートネットチーム) 友澤ゆみ子

フードドライブを始めて1年半。集まってくる食品を身近な福祉の現場で見えている気になっている方たちに届けたい、コロナ禍の中で子育てや介護を抱え困難に直面している方に、できることから始めたいという思いが膨らみました。そこに「フードパントリー」という方法があるという知恵をもらい、早速、まずは法人内で有志が集まり「フードシェアいちがお」をスタート。28日は、フードバンクかながわからの提供品とフードドライブ品を合わせて、10人の方に届けるため初めての分け合い作業でした。



まずは平等に分けつつも届ける方の家族構成を想像して、少しやりくり・思っていた以上の食品をお届けできてうれしい、というのが初回の感想です。受け取った方からも早速「助かる、ありがたい」という声が届いています。地域の中で、志のある人・団体とつながり活動を広げたいと思っています。

フードシェア  
いちがお